

渡部 恵司 (WATABE Keiji)

上級研究員、博士（農学）

2016年 農研機構 農村工学研究部門  
水利工学研究領域水域環境ユニット

2020年 農研機構 本部 理事長室 理事長補佐チーム

2022年 農研機構 農村工学研究部門  
施設工学研究領域施設保全グループ

※2016年以前はバックナンバー第29号(2012年8月)



研究者の横顔

<研究テーマ>

農業用水路やため池、水田などでの生物生息場の調査、評価、保全手法の開発に取り組んでいます。オタマジャクシの種同定のため家でしばらく飼っていたところ、子どもが保育園でオタマジャクシを描きながら「お父さんはカエルの研究をしているんだ」と話したらしく、保育園の先生たちの間でカエルの研究者だと広まっているようです。

実際、魚やカエルを主な研究対象にしており、最近はため池の廃止工事で配慮対象になるであろうサンショウウオや、貝についても勉強しています。現場の方々が実践しやすく、かつ効果のある手法を目指して、フィールド調査や実験に励んでいます。

2020年3月から2022年4月まで本部で勤務し、農研機構内外の研究手法や成果について知る貴重な機会を得ました。研究テーマに直結するものばかりではありませんが、私たちの分野で使われていなかった手法にも挑戦していきたいです。



水路での生物調査

<生き物たちとの関わり>

2015年から本メールマガジンの「農村の生き物たち」を担当し、これまでに鳥、カエル、魚、甲殻類の19種類を紹介してきました。色々な生き物の写真を撮り集めたり、準備のために図鑑などを読み比べたりするのは楽しく、とても勉強になります。ただ、調査の記録写真は地味になりがちなので、原稿をつくる時になって使える写真が少ないと焦ります。

<家庭菜園>

しばらく外出しにくかった間に、庭いじりが新たな趣味になり、果樹や野菜、アジサイなどを育てています。本部にいた時に知った農研機構育成品種の「ぶちまる」（種子の少ないキンカン）と「璃の香」（果実が大きくて酸味がまろやかなレモン）も、ご縁だと思って植えてみました。まだ2年目で、これからの生長が楽しみです。いまはイチゴやソラマメを味わいつつ、昨年植えたタマネギや、トマト、トウモロコシなどの夏野菜が大きくなるのを楽しみにしています。